



# 東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 143 Oct. 1, 2015

発行 公益社団法人  
日本山岳会東海支部

〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCLビル

電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924

郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」

銀行口座 三菱東京UFJ銀行 覚王山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (株) 浅井隆文社



第9回日中韓学生登山交流会(2頁に関連記事)

(今回の日本側隊員は、ほとんどを東海学生山岳連盟の学生が占めた)

## 目次

○第3回夏山フェスタ報告	毛利邦男	1	○リレーエッセイ⑤	尾上 昇	12	
○第9回日中韓学生登山交流会	小澤祐介	2	○東海支部の蔵書からの一冊⑤	山中光子	14	
○荒島岳遭難事故の報告パートII	柴田清康	3	○新刊書評	安藤忠夫	15	
○Alpine express in			○自然観察山行	浅井富士子	16	
Canadian Rockies	山田利行	5	○委員会報告	東海Youth	山田明美	17
○「山の日」制定記念祭in大分	佐野忠則	7	ボランティア	前田隆久		
○ネパールで巨大地震発生!			自然保護	井藤恵美子		
カトマンズレポート	和田豊司	8	山行	鈴木慎吾		
○遭難対策委員会からのお願い	野呂邦彦	9	登山教室	天野倅明		
○同好会コーナー	山中光子	10	○会務報告	毛利邦男	20	
○支部友コーナー	酒井 広	11	○ルーム日誌・会員異動	酒井 広	23	
			○INFORMATION		24	
			○編集後記	星 一男		

## 第3回夏山フェスタ開催を振り返って

夏山フェスタ実行委員会事務局 毛利邦男

今年も6月20日(土)と21日(日)の2日間わたり名古屋駅前のウインク愛知にて夏山フェスタが盛大に開催された。今年はセミナー会場を5階から7階に移すと同時に一部を山小屋中心の展示会場とし、8階の主会場の展示会場とあわせ、今回の展示出店数は89小間(前回72小間)となった。

前日6月19日(金)の前夜祭では支部員村中征也氏主宰の名古屋アルプホルンの会の皆さんによる“アルプホルン”の演奏と、支部員土屋まさ代さんと東学連小澤祐介君によるビルの屋上90メートルからの懸垂下降でフェスタの開催を盛り上げるなど、東海支部は今年も人的支援を含め多方面に亘り支援した。

会期中は「山のよろず相談コーナー」を引き受け、来場者からの多くの相談にお答えすると同時に、東海支部で引き受けている4つの登山教室の紹介、東海支部及び支部友会の活動の広報と合わせ、山岳会本部制作の「親子で楽しむ山登り」の冊子を配布し、親子で楽しむ山登りの啓蒙にも努めた。

また、今年はネパールの大地震に対する義援金の募金活動にも力を入れ、2日間で188,208円の募金を集めることが出来た。この募金は、「日本山岳会ネパール大地震救援募金」へ全額寄付をして有意義に使って頂くこととした。

初日の20日は、『知れば楽しい、撮って楽しい高山植物』と題した いかりまさし氏によるセミナーに始まり、気象予報士植田氏の『天気を読んで遭難を防ごう』、山岳写真協会鎌

田氏による「山岳写真のデジカメ撮影術」等のセミナーが催された。その後「山の日記念フォーラム」として三重県知事鈴木英敬氏の「森のようちえん」と題



東学連 小澤祐介君

した基調講演につづき、山と溪谷社川崎深雪氏、森林インストラクター赤尾友和氏、全国山の日協議会磯野剛太氏を加えフォーラム「森は子どもたちのワンダーランド」が開催された。日本人初の「8000m峰全14座完全登頂」を成し遂げたプロ登山家の竹内洋岳「山のトークショー」には、朝早くから用意された300人分の整理券は瞬間になくなり、立見席にも約100名の方が参加する盛況であった。

2日目の21日は、日本山岳会110周年記念フォーラムとして昨年発生した御嶽山での噴火に伴う最悪の山岳事故から学ぶことをテーマに科学委員会委員長福岡孝昭氏による“活火山の安全登山”と題した基調講演につづき、医師上条剛志氏、カメラマン津野祐次氏、岐阜県警察山岳警備隊谷口光洋氏、五の池小屋市川典司氏を加えた五氏により“その時、何が起こったのか？”と題した活発な意見が交換された。(フォーラムの内容については日本山岳会だより [123号] 参照<http://jac.or.jp/info/iinkai/cat64/post-1019.html>)

その他に谷口光洋氏による山岳遭難現場報告、登山ガイド小川さゆり氏による御嶽事故からの生還報告のセミナー、イラストレーター鈴木みき氏のトークショーがあり、最後は支部員鈴木慎吾氏による「スマホで登山を楽しもう」と題したセミナーが催され夏山フェスタを終了した。2日間で会場を訪れた参加者は6,930名を数えた。



今年も盛況の講演会風景

# 第9回日中韓学生登山交流会

東海学生山岳連盟 小澤祐介

## 1. 概要

- ・開催期間：2105年8月12日(水)–18日(火)
- ・開催場所：中国湖北省武漢市
- ・参加者数：日本8人：小澤祐介（リーダー名工大4年）、杉本 晴（南山大4年）、鎌井恵太（名工大2年）、坂部信一郎（南山大3年）、鈴木佑実（南山大2年）、生島諒一（同志社大2年）、川口康平（同志社大1年）、秋本克規（京都大1年）(+2teachers)、中国 20人(+3 teachers)、韓国10人(+3teachers)

今回で9回目を数える本プログラムは、中国湖北省武漢市を舞台に行われた。期間中の活動内容は主にチーム対抗競技と、各大学の見学の2種類に分けられる。

期間中は中国、日本、韓国から集まった学生同士が、積極的に交流することが出来た。

## 2. 活動内容

対抗競技では三国混成の10人程度で構成されたA～Dの4グループに分かれて各種競技に臨んだ。

### ◆8月13日

#### クライミングコンペ 中国地質大学

各賞に応じて、登山用具等の賞品が出た。



クライミングコンペティション

### ◆8月14日

#### 洪湖風景区へ移動し風景区での散策

武漢から3時間バスに乗り、更に40分程、乗船し洪湖風景区にある蓮の群生地である湿地

帯をグループに分かれ散策した。

### ◆8月15日

#### ドラゴンボート綱引き 洪湖風景区

2隻のドラゴンボートは綱でつながれており、より強く曳いたチームが勝ちとなる。

#### 自給自足調理

チームごとに釣った魚と採った蓮の実を自分たちで手分けし調理して食べた。

#### キャンプファイアー

### ◆8月16日

#### 洪湖風景区で障害物競走

### ◆8月17日

#### ドラゴンボートレース 華中科技大学

2艘のドラゴンボートで200mを競った。

### ◆大学見学 8月13日、17日、18日

中国地質大学、華中科技大学、武漢工程大学を見学する機会があり、各大学について説明を受けた。

### ◆交流

語り合い、笑い合い、踊り、時には羽目を外して呑んだり素晴らしい時間を共有できた。

## 3. 感想と今後に向けて

今回は登山らしい競技こそ少なかったが、盛りだくさんのイベントの合間には登山という共通の趣味を持った学生同士、それぞれが日頃どのような活動に興じているのかを話し合うことができた。

やはり私はこのプログラムの根幹は交流にあると思う。昨年に韓国で、「2015年にまた中国で」と約束した再会は、一部の人とは果たせたが当然そうでない人もいた。一期一会という言葉が思い出される。

しかし、せっかく生まれたこの交流の息吹を絶やさぬようにしようという動きが具体化しつつある。まず、三ヶ国の学生全員が使用可能なコミュニケーションとデータ共有システムの構築と、参加にあたってのノウハウを次年度以降の後輩たちへ伝達である。いずれはこのシステムを活用して、再会そのものを目的に、あるいは共通の目標たる山への挑戦を目的に、他にも多種多様な目的の下に連絡を取り合おうと目論んでいる。これからも、着実に草の根交流を続けて行こうと思う。

## 荒島岳遭難事故パートⅡ

副支部長 柴田清康

荒島岳荒島谷川の遭難事故は個人山行である。事故の原因究明は第一にパーティーがリーダーを中心に徹底的に行うべきである。一方支部遭難検討委員会は、パーティーの検討を補完すべく現場検証を含め5ヶ月間の検討を実施した。事故原因の分析を行った結果を抜粋して報告する。尚事故報告会は当事者により9月25日支部ルームにて開催された。

### 第1に計画段階での検討不足である。

石田パーティーは無雪期の一般ルートに登るが如き考えで残雪期のバリエーションルートしかも記録が極めて少ない陰谷に偵察もなく挑んだのは無謀であったのではないか。

- ①計画書のコース時間は希望的観測に満ちている。
- ②未知のコースの状況把握が事前になされていなかった。
- ③メンバーの技量を掌握することなくいつものメンバー構成で漫然と挙行了した。
- ④ヘルメット・ピッケル・ハーネス等 装備の不足があったことに現れている。

積雪期を目指す人は、無雪期の山が着雪したらどうなるかを想像し無雪期のルートは、積雪期にはどう変更かを常に考えて観察している。積雪期は根本的に無雪期と異にするからこそ昔は冬山が恐れられていたのが、僥倖が重なったことを実力と錯覚して安易に取り組んだことを戒めとしなければならない。

具体的にコースの状況を考えて、荒島谷川左岸に堰堤建設用の林道が完成して以来、荒島谷川そのものの遡行は容易になったかの如くである。そこに石田パーティーは着目したようだ。しかし、無雪期と積雪期は大いに状況が変わる。

積雪期の林道は、雪により斜面に埋没して、林道の痕跡すら残らず、林道を発見することも不可能であるのは、山登りを考えてきた人は承知である。とすれば、**林道の存在意味はなく**、林道があるからアプローチが容易として計画書で荒島谷川出合より8の谷出合迄の所要時間を5:25~6:54の1時間半としたのは間違いである。



7時19分 第4堰堤手前の谷相と雪でかくれた林道

### 第2に事故の直接的原因

#### ①雪・石等の落下の可能性が大である箇所を通過する時の上部（山側）の観察不注意

5人のパーティーは、従来より山行を共にする固定メンバーであり、前年の6月には白馬の大雪渓を登っている。であるならば、杓子沢や白馬岳主稜へ食い込む雪渓からの落石等を観察しながら登ることは、山の経験年数から考えて既に修得済であるはず。

#### ②雪上技術訓練の不足による初歩の滑落停止失敗

大島さんの事故地点の斜度は10°であった。ピッケルをあらかじめ強く刺し込むとか、転倒直後にピッケルを素早く打込んで居れば滑落はなかった。更に、大島さん死亡確認後に発生した2次事故である前田さんの滑落は残念である。滑落地点は「比較的安全と思われる雪斜面」から「さらに3人（前田・吉田・遠藤）で安全場所へ移動しようとしたところ」で発生した。

#### ③体調管理の不足

万全の体調で登山に臨むのは鉄則である。ほとんどの中高年登山者は体調を整えるべく少なくとも登山の直前は配慮を怠っていない。計画では、起床は3:45 5時出発であった。すると、前夜はどうすべきか自明である本人は勿論、自己の体調を整えるべきだし、リーダーはメンバーが自己管理ができない人間なら厳しく叱責して、万全の体調で臨むよう指導すべきであり、場合によっては、メンバーから外すのは当

然である。

### 第3に事故の間接的原因

退却・撤退に対する考え方、並びに、現場での決断能力の欠如にある。

①勢いがある時に前進するのは楽しいし、誰でも可能である。退却・撤退が難しいのは、その判断要素が広くて深く、今までの苦労が0(ゼロ)に帰すからである。

体力のみで登れる山であれば、退却・撤退もその判断は比較的容易であり、引き返し時間の設定で足るであろう。しかし、目指す山が体力以外の要素が多ければ多いほど、事前にその要素等を検討して解消しておく必要がある。計画が杜撰であるため、その要素も検討されてないから、現場で退却・撤退の要因が把握できず、**滑落して初めて撤退の決断に至ったのが原因**である。

②石田パーティーは、計画段階で核心部は8の谷出合からと想定していたはずだ。しかし、入渓後間もなく想定外の谷相に直面し、それに対処がとれなかったのは、核心部のみに気を取られ、そのアプローチと考えていた荒島谷川の要素の検討不足が基因である。

③計画での頂上到着予定は10時33分であるが、引き返し時間を13時30分と決定したのも理解不能である。又高巻きで**懸垂下降した箇所は**、計画では復路として下山路となるのでロープを残置すべきだが回収してしまったので**登り返せない**。

④Lの経験年数は豊富であり乍ら、積雪期の谷のイメージが不足していたため想定と現実の乖離が何をもちたすかも理解できず、ただ登りたい、または、トレースしたい気持ちが強く働きすぎて退却・撤退が脳裏に浮かばなかった。

### 第4に原因を招いた背景として

①リーダーは、メンバーに対しいささかも遠慮するところがあってはいけない。下界での人間関係と山での人間関係を同一視して、隊から外すと命じた場合その人が傷つくとかで躊躇したり婉曲に物を言うことは、厳しい山登りでは御法度である。

②お互いに束縛されるのを嫌い、リーダーはメンバーの力量を厳格に査定せず、曖昧にし「この指止まれ、あの山行こう」の軽い感覚が蔓延し、今回の事故となった。

登山を共にするという緊密な人間関係を構



6時48分 入渓直後のデブリと倒木

築せず、下界同様の「ゆるやかなつながり」のままで良しとする雰囲気、危険を察知しながらコミュニケーションが取れなかったことが背景にあるのではないかと。

### 今後の支部のあり方

最後に、遭難事故が起こると「ここでこうすればよかった」と行動の選択肢を列挙するだけの反省や報告となるのが常である。しかし、パーティーの中にリーダーシップが存在せずパーティーとして機能していない場合には、行動判断の誤りを指摘しても机上の空論になってしまう。よくあるマニュアル化である。

今回の遭難は直接的・間接的原因も大切な事項であるが、それを運用するリーダーやメンバーの意識・態度の面で問題が多い。遭難したリーダー・メンバーは失敗した登山を、仲間(まずパーティー、次にいつものメンバー、その次に指導していた山行委員会の順で)と共に今後も厳しく検討を続け地道に、折に触れ口から口へ伝えていくことが責務であると考え。

支部は、「登山の基礎」がいわゆるベテラン支部員に放置されてきたことを反省し、組織として原点に立って見直すこととした。根本となるリーダーシップ・メンバーシップを確立しつつ、委員会単位でなく支部全体で、当面次の3点から取り組むこととした。

①レスキュー技術講習会の受講を全員に課す。

②岩登り技術講習会を段階に応じて恒常的に実施する。

③雪山を目指す人には、雪上技術習得を必須とする。

常に安全第一を忘れないようにして、厳しく対処していくことが楽しい山登りを続けていくことの第一歩であることを徹底したい。

# Alpine express in the Canadian Rockies

青年部 山田利行



アシニボイン

東稜は左のスカイライン、山名は先住民の部族の名前に由来する。カナディアンロッキー第7の高峰。

## アシニボイン東稜・単独/ワンデイ 登攀

6月に入ってカナダでハイキングガイドになるためのトレーニングをはじめ、6月末にACMG(カナダ山岳協会)のガイド試験(9日間)に無事合格した。カナダの国立公園でバックパッキングのガイドをするにはこの資格が必要になる。試験が終わった翌日から早速仕事が始まり瞬く間に7月が終わりを迎えようとしていた。空いた時間でなんとかクライミングジムやフリーの岩場で登ってはいたが、モチベーションは続かないし、グレードを上げる気力もなかった。でも秋に予定している目標に向けてトレーニングがしたい気持ちでかなりフラストレーションが溜まっていた。春の登攀(前回支部報に掲載)で分かったことは、アルパインクライミングには1にも2にも体力が必要だということ。それはマウントテンブル北壁の核心(5.8, A2 or 5.10)で浮石を踏みフォールしているのだが、その核心が1,200mの壁の最後に出てくる。ビバークした後の疲れた体でそのピッチをこなせるだけの体力がなかったということだ。

アイゼンでのスメアリングも安定しないし、浮石を判断する能力も低下していた。また、ビックウォールをアルパインスタイルで登るにはスピードが重要になってくる。それを可能にするのは簡単なセクションは同時登攀で登るということ。それはたとえパートナーと

ロープを結んでいてもビレイされているわけではないからフリーソロと変わらない。そこでトレーニングとしてやってみようと考えたのがアシニボインの単独ワンデイ登攀だった。

アシニボイン(3,618m)はカナダのマッターホルンと呼ばれるぐらい山容も良く、日本人の間ではカナダの山で一番知られている山だ。通常この山を登るには早くて1泊2日、大体2泊3日が一般的である。私の住むアルバータ州側のマウントシャーク登山口もしくはロッキーを挟んだブリティッシュコロンビア州側のアッシニボインクリークから歩き始める。ヘリ大国のカナダらしく近くのアッシニボインロッジへヘリ入山という裏技もある。

今回私は、一番キャンモアから近く(車で1時間)かつ一番長い距離を歩かなくてはならないマウントシャークから歩き始めることにした。登山口から頂上まで距離30キロ以上。標高差約2,000mだ。スピードを意識すると必然的に装備も最低限にしなければならずこの選定も楽しかった。クライミング技術的には日本のⅢ級くらいなので登りはフリーソロ、下りは懸垂用に1本だけロープを持っていくことにした。

明け方に壁へ取りつくために夜21時半に登山口を出発した。夏の時期のロッキー登山におけるもっとも気を付けなければならないのがクマである。クマはロッキーの到ると所に生息しているので夜のハイキングは本当に怖かった。ベアスプレーを腰に下げガンマンのごとくいつでもスプレーを取り出せる態勢で時には雄叫びをあげ歩いた。

27キロを歩きアッシニボインロッジを越え氷河に出る手前のロックバンドで道が分からなくなりここで1時間半ほど日の出を待った。日が出てからもルートファインディングに戸惑い適当に上がれそうなところを上へ上へと登る。ようやく氷河に出て壁の基部に着いたのが8時。上部はガスっていてお世辞にも天気は良くないが、急げば雨や雪に降られる前に登れると思い靴を登山靴に履き替えギアを付け再び歩き出す。

壁の取りつきを間違えここも適当に行けそ



アシニボインからマウントシャーク駐車場を遠望する

うなラインを登ると正規ルートに合流し、後は微かな踏み跡とケルンを辿って12時頃に頂上に立った。下りは最近打ち変えられた懸垂支点を使い数か所懸垂した。氷河下のロックバンドは結局正規ルートが分からず2時間くらい迷った挙句来た道に戻りハーケンとナッツで1か所懸垂して15時にハイキングトレイルに着くことができた。残り時間は後6時間。30キロをひたすら歩いて21時15分に駐車場に到着することができ、なんとか目的の単独&ワンデイを達成することができた。

トレーニングとしては大成功だったと思う。それは技術的には簡単でも大きい山のアルパインクライミングにもっとも重要な要素の一つであるルートファインディングを素早くしなければならなかったし、今回は天気も悪く他にクライマーがいなかったので本当の単独を味わうことができたから。限界まで疲れた体と足の裏の水膨れが秋のロッキーでのクライミングと来春に予定している遠征に活かされると信じている。

### チャレンジ精神と目標に向かうこと

昔の山岳部の伝統では冬合宿ために夏合宿があり、夏の間は「冬山」という目標のためのトレーニング期間という位置付けであった。今はフリークライミング、山スキー、沢登りなどの台頭で各部員の趣味趣向が尊重されているから昔の山岳部の伝統は消えつつある。古い伝統が時代に合わず廃れて行くことは仕方のないことだと思うが、しかし山岳部(会)の根底にあるチャレンジ精神だけは是非とも守りたい。1年もしくはもっと長期のスパんでチャレンジングな目標を定め、その目標のた

めに想像力を活かしたトレーニングするということは私にとって学生の時と今と何も変わらないローテンションだ。

私の大学3年生の頃は休学してヨセミテのビックウォール（登れなかったけど）と冬の剣（なんとか登れた）へ行くことだったし、6年生の頃は東海学生山岳連盟でクスムカングル南東壁を登ることだった。結果の見える目標ではなく考えたら不安になるぐらいの計画を目標にしてほしい。その不安に打ち勝つためにトレーニングをしなくてはならないし、仲間も必要になってくる。心配な時は頼もしい先輩にアドバイスを聞くことも東海支部ならできる。ただ闇雲に楽しんで山をやるだけにしてほしい。いつも自分なりのチャレンジを想像して実行してほしいと思っている。

### 行動記録

7月22日	21:30	マウントシャーク駐車場
7月23日	03:00	アシニボインロッジ
	08:00	壁基部
	12:00	アシニボイン頂上
	15:00	ハイキングトレイル
	21:15	マウントシャーク駐車場

### 山田利行プロフィール

北米での生活とクライミングの両立を目指して2014年に名古屋からカナダ・キャンモアへ移住。カナナスカマウンテンツアーズ所属。日本では日本山岳会東海支部、チーム猫屋敷、南山大学アルパインクラブOB会所属。

### 「パソコンを活用した地形図の作成」講習会

山行委員会の主催で、パソコンソフト「カシミール3D」を利用して地形図を作る講習会を下記要領で開催いたします。参加をご希望される方は、11月30日までにメールにて下記まで申し込んでください。

1. 日 時：平成27年12月11日(金)  
午後7時～9時
2. 場 所：支部ルーム
3. 講 師：鈴木慎吾
4. 申込先：鈴木慎吾  
メール willkun23@gmail.com
5. その他：ソフトの必要な方はUSBメモリーをご持参ください。

山行委員長 鈴木慎吾

# 「山の日」制定記念祭 in 大分に参加して

副支部長 佐野忠則

来年の8月11日から実施される国民の祝日「山の日」に先立ち、今年の8月11日にそのイベントとして『「山の日」制定記念祭 in 大分』が大分県の主催で大分県九重(ここのえ)市長者原(ちょうじゃばる)高原で開催されたので来年以降の支部の取り組み方の参考とするため参加した。

「山の日」制定記念祭に先立ち坊がつる賛歌記念碑序幕式が隣接地で行われた。坊がつる賛歌は戦前の広島大学山岳部の歌をベースに戦後つくられた山の歌でNHK「みんなのうた」で採り上げられた芹洋子の楽曲であり、今回は本人が参加して序幕式が行われた。参加した議員連盟の衛藤征四郎氏は「山の日」の歌にしても良いような祝辞であった。

続いて行われた「山の日」制定記念祭 in 大分はテント会場で300人程度の参加であった。関係者挨拶の中で谷垣禎一「山の日」協議会会長からは以下の挨拶があった。「山の日」制定活動は当初登山者活動から始まったが、その後、検討が深まり、明治時代の日本風景論の著者志賀重昂(しがしげたか)の言葉を引



谷垣禎一「山の日」協議会会長の挨拶

用し、明治維新後日本は西欧列強に対して何を誇るべきかの議論の中で日本は四季に恵まれた風景の美しい国であり、その風景が日本人の気風を育てて来た。その風景を誇るべきと述べている。そのような活動をもう一度思い出し、山の恵みのおかげで、生物多様性に富んだ日本の国土に感謝する日と考えている。

次に「山の日」議員連盟会長の衛藤氏は「海の日」は制定活動に37年かかったが、山岳団体の提唱で始まった「山の日」は超党派の国を挙げての活動で2年間で出来た、等の挨拶があった。

メッセージ紹介はミス日本みどりの女神によって行われた。寄せられた160以上の内、3人のメッセージの紹介があった。芹洋子さんの指導で坊がつる賛歌の合唱の後、おおい「山の日」宣言が4人の児童によって行なわれ閉会となった。会場では参加団体による各種イベントが終日行われたが、本会場には参加せず、各地域でのイベントへの参加者も多かった。



坊がつる賛歌記念碑除幕式

## 全国山の日協議会が「山の日」歌詞を募集

全国「山の日」協議会は、「山の日」を記念した歌を制作することを決定した。作詞家の船村徹氏が総合プロデューサーを務め、歌詞を一般から募集。2016年春以降、楽曲として完成させる予定。東海支部関係者からも是非応募して欲しい。

【募集要項】未発表作品、800字以内。〒住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記。郵便(はがき不可)は〒100-8051(住所不要)毎日新聞社「山の日」歌詞募集係(毎日企画サービス内)まで。締め切りは今年末。最優秀賞2編に各50万円、優秀賞2編に各10万円の副賞を贈呈。



# ネパールで巨大地震発生!

—カトマンズレポート—

和田豊司

2015年4月25日本震、5月12日には大きな余震が発生した。地震の詳細は省略する。造山活動の活発なヒマラヤ山脈では過去にも巨大地震が数十年ごとに発生している。今回の地震は1934年以来の巨大地震である。この地震により8,500人を越える犠牲者が出ている。特に震源地に近いガネッシュヒマールやランタン谷周辺では大きな被害が出ている。世界一美しい谷と言われるランタン谷では雪崩と岩盤崩壊、それに伴う爆風、土石流で村そのものが消失してしまった。また、余震によりエベレストのBC近くでも犠牲者が多数出た。緊急救援活動が一段落した6月初旬、ナムチェバザール、クムジュン村を訪問した。登山家がヒマラヤ登山でいつもお世話になっているシェルパ族の人々の故郷である。エベレストの初登頂者であるヒラリーが開校したクムジュンにある中学校の復旧支援調査が主目的である。震源地には行っていない。

カトマンズの市内で驚いたことはどこで地震が起こったのだろうかと思うくらい何も変わらない町の様子である。ニューロードと呼ぶ市民の日用品売場が所狭ましと並ぶ繁華街は地震による損壊はほとんどない。街の賑わいや喧騒も昔のままである。ちょっと違うのは外国人観光客やトレッカーが全くと言って良いほど居ない。ホテル近くの旧王宮で被害が見えてきた。高いレンガ作りの外壁がかなりの部分崩壊している。45年ほど前から訪れているネパールだが旧王宮の中を覗き込んだのは初めてだ。ゆったりとした庭には各国の救援テントが



旧王宮前でテント生活

立ち並ぶ。軍のテントもある。

タメルという旧市街に入ると、所々で建物の損壊が目立ち始める。特に窓枠が細かな木彫で飾られたレンガ作りの古い建物の損壊が激しく傾いたり割れ目が入っている。でも市民は今にも壊れそうな建物でも平気で出入りし、生活している。多少なりと鉄筋やコンクリを使用している新しい建物は被害がない。寺院など世界遺産が立ち並ぶダルバール広場周辺は見るとも無残に全半壊し、1か月以上経過しているにもかかわらずテント生活者が広場を埋め尽くしている。その周りで軍隊がガレキを人力やブルドーザを使って撤去している。マスコミで流される地震の被害はこの広場の様子を伝えている。カトマンズは電力不足で計画停電が日常化しており地域ごとに通電時間が決まっている。ところが、地震以降はほとんど停電がない。地震で電力消費が減り、計画停電が不要になっているためだと言う。上水道や携帯電話等のインフラも異常なしだ。

エベレスト街道へ向かうルクラへの飛行機の窓から丘陵地帯の村々を見るとほとんどの家の庭に赤、黄、青など色とりどりのテントが張られている。農村に似合わない鮮やかな色が点々としているのでよくわかる。皆余震を恐れ夜はテントで寝ているのだそうだ。エベレスト地域(ソロクンブ)の要所であるナムチェバザールへの道筋では地震による建物の損壊が目立ち始める。道の損壊はほとんどない。この地域の家は厚さ40cmほどの石積みの外壁に窓枠や梁が木材、屋根はトタン、部屋の内面がベ



エベレスト街道ロッジ

ニヤという構造である。ほとんどモルタル、コンクリ、鉄筋を使っていない。耐震性など全くと言って良いほど考えていない。一見何ともない建物でも壁にヒビが入ったり石積みの壁が一部壊れている。泊まったロッジの主に発生時の様子を聞くと棚の商品である酒のビンや食品は飛び出してこなかったという。震度4～5程度であったと推定している。

ナムチェバザールやクムジュンでも状況は同じ。村人は余震で石積みの壁の崩壊を恐れ寝るときはテント。エベレスト街道沿いでは人的被害はわずかである。電気、水道、飛行場も被害を受けていない。建物の損壊が被害のほとんどのようだ。震度(4～5)に比較し建物の損壊が激しい。石を積んだだけの構造が災いしてい

る。主目的であったクムジュンスクールの被害は建屋11カ所、トイレ2カ所が損壊していた。ストゥーパ(仏塔)は見るも無残にヒビだらけで一部崩壊している。

一番の打撃は観光客、トレッカー、登山者が来なくなったことである。資源も産業も乏しいネパールにとって観光は外貨獲得の重要な産業である。1ヶ月たってもエベレスト街道に人が来ない(雨季でもあるが)。出合った外国人はわずか数名で支援ボランティアの人のみ。街道筋ではベニヤ、材木、トタンなど建設資材を運ぶポーターが列をなして高所に向かっていった。秋のシーズン入りの準備が着々と進んでいる。現地の人たちは早く観光客やトレッカーが来るのを待ち望んでいる。

### オープン講演会のご案内

#### 語り部が語り継ぐ「小説氷壁とナイロンザイル事件」

日時 平成28年2月10日(水) 19:00～20:30

場所 東海支部ルーム 語り部 尾上昇氏(常任評議員)

ナイロンザイル事件のあらまし 昭和30年1月1日、前穂東壁の厳冬期初登攀に挑んでいた3人の若者がいた。その登攀の途中、麻ザイルより3倍強いといわれていたナイロンザイルがちょっとした衝撃でいとも簡単に切れ、一人の若者が滑落死亡する事件が起きた。何故ザイルはそんなに簡単に切れたのであろうか……。

◎この講演会は、支部友会主催ですが、支部員の皆様にもご出席いただけるオープン講演会で開催します。

## 遭難対策委員会からのお願い～登山届は携帯から原則メールとします

荒島岳遭難事故などの反省をふまえ、このたび常務委員会の承認を得て、東海支部の支部員及び支部友会員が登山をするにあたってはより確実に登山届を提出して頂く為、今迄の携帯電話による専用携帯電話への登山届に加え、メールによる登山届提出を可能にしました。つきましては支部主催の山行以外の山行(個人山行、同好会山行、委員会主催山行)については、東海支部への登山届提出を義務化することとしました。登山届の提出方法は下記のいずれでも可と致します。

A) 専用携帯電話(080-2632-3776)への届け出  
対象は、警察への登山届を出す時間的余裕がない場合。

B) 東海支部登山届専用アドレス

jactokai103@gmail.comへの届け出。(届け出の方法は下記参照)

C) Fax(052-322-7924)または郵送による東海支部への届け出

登山届専用メールアドレスへの登山届の提出方法は下記の通り。

①登山計画書をWord, Excel, またはPDFで作成

②タイトルに「入山年月日(西暦4桁・半角)、リーダー名、目的山域」を記入(入力例: 20151001東海太郎, 剣岳)したメールに登山計画書を添付し、登山届提出専用メールアドレス:

jactokai103@gmail.comに送信する。添付すべき計画書がない場合は本文に山域名、同行者名、入山日、登山口、下山日および下山口を記載すること。

③添付する登山届がある場合は、本文に入力することは要しない。個人情報保持のため、上記に基づき提出された登山届(登山計画書)は事故発生時の対応のみに利用するので個人情報漏えいの懸念はないと考えて頂いてよいと思う。支部関係各位のご協力をお願いする次第である。

委員長 野呂邦彦

## 同好会紹介コーナー

東海支部員が有意義なクラブライフを享受するための組織として同好会が発足しています。同好会とは、支部の仲間が同好の士と東海支部の事業目的に沿った多様な活動を通じて有意義なクラブライフを享受しようとする集りで、常務委員会への設立報告に基づいて登録された会をいいます。東海支部員・支部友会員なら誰でも入会自由です。同好会規約及び設立の申込み方法は本年度の支部ガイドに記載してあります。

### 古道塩の道同好会

山中光子

古道塩の道の探索は、愛知県を抜け長野県に入った。今回の探索は根羽村、平谷村、治部坂峠を越え浪合地区へ、ここは阿智村と合併された所となっている。阿智村では、村役場の方を通し沢山の方から、色々な情報を頂く事ができた。塩の道の古道はもちろん、木地師の話も伺え、村の村史にしか掲載されていないような木地師墓石群まで案内いただく。おまけに下見の時に部分的に判明しなかった古道がわかり、今は消防隊の車庫になっている所が塩問屋跡。広い敷地で豪勢な勢いであった事がわかる。

昔の寒原峠は、山のトンネルとなっていて

その中を通っていたが、現在では山は削られて普通の道となっている。古道は山の上を歩



阿智村一の萱旧道 木地師墓石群  
墓石に木地師の文字がある

いた。2013年8月、下見の時に役場の方の案内で、地元の研究者しかわからない谷筋の道を教えてもらい、喜んでいたらその年9月の台風で道が流されてしまった。会員には入口しか案内できず、先回の探索例会では、流された道の出口近辺から歩き始めた。そこは大野と言う集落で山肌には、役行者像も建っている。

大野は駒場宿（次回探索予定地）と浪合宿の間にある「合い宿」の性質を持ち、茶屋、旅籠、馬宿があったとされる。大野薬師堂から旧道を川沿いに歩くのだが、この地点でも一部川に流されてしまった地区もあり、山が深いだけあり災害の恐ろしさを痛感する。

### 森の音楽祭実行委員会からのお知らせ

支部報 142 号にてすでにご案内の通り第 7 回森の音楽祭 2015 を下記要領にて開催します。

日 時：10 月 24 日(土)午前 10 時 30 分から午後 3 時 30 分

場 所：猿投の森（愛知県有林やまじの森） 雨天時はコンサートのみ瀬戸蔵つばきホール

集 合：名鉄尾張瀬戸駅前 午前 8 時～9 時

第 1 部(1)10:30～10:45 アルプホルン演奏(2)11:00～12:00 東海学園交響楽団による演奏と合唱

第 2 部(1)13:00～15:00 森の観察会(2)12:30～15:30 猿投山登山(3)13:00～15:00 クリスマス

リース作り

参加費：500 円（クリスマスリース作りは材料代別途 300 円必要）

申込は 9 月 30 日で締切っており、第 2 部への新規申し込みは受付できませんが、第 1 部については余裕がありますので是非ご参加ください。

申込方法：ハガキ・ファックス（東海支部森の音楽祭実行委員会 宛）又は、

e-mail(メールアドレス sanagenomori@gmail.com

問合せ先：090-7859-4031

東海支部俳壇

西山秀夫

東南稜分岐のケルン

炎天や命を分かつ尾根に  
立つ

薬師岳北へと続く登山道

薬師なる雷鳥人を恐れざる

お花畑奥黒部なる山又山

愛大生十三名の慰霊ケルン

お花畑薬師平の供花とすれ

天上に咲くや白山一花群れ  
はくさんいぢぢ

綿菅の群れ咲く池塘瞳めく  
わたしぢ ちとぢ

薬師より湧きいずるなり

山清水

テントすらお一人様や  
キャンプ場

# 支部友コーナー

## ◆支部友委員会山行計画

(平成27年11月～平成28年1月分)

平成 27 年

11月1日(日)敦賀の野坂岳(913m)

☆☆ リーダー：酒井 広 締切：10月12日

11月6日(金)奥美濃の冠山(1,257m)

☆☆ リーダー：伊藤康信 締切：10月17日

11月15日(日)奥美濃の小津権現(1,158m)

☆ リーダー：榊 将美 締切：10月26日

11月16日(月)鈴鹿の宮指路岳(946m)

仙ヶ岳(961m)

☆☆ リーダー：田中 進 締切：10月27日

12月1日(火)東紀州の姫越山(503m)

☆ リーダー：伊藤康信 締切：11月11日

12月5日(土)恵那の屏風山(794m)

☆ リーダー：酒井 広 締切：11月15日

12月23日(水)伊勢の矢頭山(731m)

☆ リーダー：今津英一郎 締切：12月3日

平成 28 年

1月10日(日)三河の宮路山(361m)～

御堂山(364m)

☆☆ リーダー：酒井 広 締切：12月21日

1月18日(月)鈴鹿の藤原岳(1,140m)

☆☆ リーダー：伊藤康信 締切：12月29日

1月26日(火)伊勢の朝熊ヶ岳(555m)～

内宮参拝

☆ リーダー：川北一博 締切：1月6日

## —— おしらせ ——

支部友会員数

平成27年9月現在 / 53名

## 次回支部友ミーティング

### 開催内容のお知らせ

- ① 第15回『手づくり忘年会・新入会員歓迎会』  
日時：12月9日(水)19:00～ 支部ルーム  
一年を振り返り山を語り親睦を深める
- ② 第16回『小説「氷壁」とナロンザイル事件』  
日時：平成28年2月10日(水)19:00～  
支部ルーム 講師：尾上 昇氏

**山行対象者** 支部友会員及び支部会員

### 申込み方法

- ・支部友会員は申込締切日までに、各山行リーダーが示す方法で申し込む。
- ・締切日 原則山行日 20 日前まで。(締切日を過ぎての参加空き情報はリーダーに直接問い合わせ下さい)
- ・支部会員は申し込み締切日の翌日以降に、各山行のリーダーへ問い合わせる。
- ・山行の募集人員を超えない範囲で、支部会員の参加申し込みを受け付ける。

### リーダー連絡先

酒井 広 電話・FAX：0568-92-6137

メール：[hiroshi19540419@na.commufta.jp](mailto:hiroshi19540419@na.commufta.jp)

伊藤 康信 携帯：090-2577-8137

メール：[kobitokaba@mediacat.ne.jp](mailto:kobitokaba@mediacat.ne.jp)

榊 将美 携帯：090-7237-4410

FAX:052-710-7089

メール：[m.sakaki@minds-consulting.jp](mailto:m.sakaki@minds-consulting.jp)

今津 英一郎 携帯 090-2616-7549

FAX:052-761-8418

メール：[imazu.eitirou@maroon.plala.or.jp](mailto:imazu.eitirou@maroon.plala.or.jp)

川北 一博 携帯：090-3956-4123

メール：[kawakitakazuhiro@outlook.com](mailto:kawakitakazuhiro@outlook.com)

個人山行も J A C 東海登山届けを！



専用携帯電話(担当 野呂邦彦)

080-2632-3776

## 猿投の森づくりの会ことはじめ —— 設立のエピソードから ——

常任評議員 尾上 昇

先般「猿投の森づくりの会」から、会設立10周年の記念誌が届いた。設立に少なからず携わった身には、大変感慨深いものがある。ところがざっと目を通したところこの記念誌には、設立の動機や経緯の記載がない。通常この手の類のものには、こうしたことは記述されてしかるべきだと思うのだが如何なものであろうか。本稿を借りてその辺りのことを記させてもらおうかと思ったが、エッセイなので詳細な記述はふさわしくないし、私自身その立場でもないので遠慮させていただく。その代りという訳でもないが、設立までに至るエピソードが色々あるので、それを二、三記させてもらうことにする。

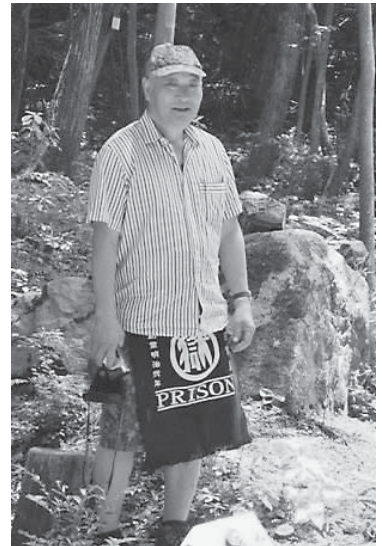
とは申せ、10年も前のこと、私の記憶も薄れかけている。そこで、当時のことを思い出すのもよいかと思い東海山岳を練ってみた。あった。東海山岳9号の410頁から420頁にかけて橋村一豊さんが詳しく記述している。判り易く良く書いている。是非森づくりの会の関係者には、読んでおいて欲しい。また、今や森の会は支部の年度行事の中でも大変大きな位置を占めているので、他の支部員の各位にもご一読いただくとよい。

この稿を読んでいただければ理解できるが、森の会は、橋村一豊さんの森林に対する深い知見と理解、それと森づくり(施業)に賭ける執念にも似た情熱がすべてを動かしていることをここから読み取ることができる。東海支部内では、橋村一豊さんは、森の人というイメージが強いが、実のところは、日本を代表する凄い実績を持つ登山家なのである。もし、日本山岳岳豪列伝なる番付表があるとすれば、間違いなく橋村さんは東西いずれかの横綱が大関に収まるであろう。特に厳冬の滝谷と剣岳東面の初登攀の記録は、群を抜いている。又、ジャヌーの新ルートも開拓している。

その橋村さんが、森づくりを思い立ち、名古屋周辺の森々を丹念に調査して白羽の矢を立てたのが愛知県の県有林である猿投山の北西斜面の森であった。目的は、猿投の雑木林を生

物多様性に富む豊かな落葉広葉樹林の森に育てるというものである。

県有林なので勝手に踏み込む訳にはいかない。そこで所轄である愛知県の農林水産部林務課(県有林事務所)に掛け



「猿投の森」の中の橋村さん

合い施業の許可を求めたのである。ところが、林務課は、面喰った。そうであろう。そんな申し出を受けるのは前代未聞だったからである。何だかんだとけちを付けて、中々埒が明かない。

そこで私の出番である。母校の後輩で当時県会議員であった伊藤忠彦氏(現衆議院議員)を動かした。早速、この部署の担当である稲垣副知事をご紹介いただき、伊藤議員同席のもとで、私と橋村さんそれに当時の寺西支部長が面談、主旨を説明しトップダウンを図ったのである。この時タイミングがよかった。当時、林野庁が「ふれあい森制度」という官有の森林の民活を推進していたのである。ちなみに東京本部ではこの制度を利用した「高尾の森づくりの会」が3年前に発足している。

トップのお墨付きが出れば話は早い。この「ふれあい森制度」の愛知県版の第1号として東海支部が認可を受けることになった。ところがである。林務課が持ってきたのは、猿投山の北西斜面の森ではなくて国道263号線沿いの県有林であった。通称岩屋堂の森というのだそうである。東海支部ルームで、橋村さん、寺西支部長、それに私の3名が対応した。橋村さんは、この提案を一蹴、猿投でなくては駄目であると

主張。その論拠は、橋村さんのいう森の理想的な施業条件とは余りにも掛け離れているからである。標高も低く平で植性が乏しく、2次林の里山に毛の生えた程度で、とても森などと呼べる代物ではなかった。県も高をくくっていたのである。どうせ素人の物好き集団が、面白半分に草刈りでもやるぐらいに考えていたのである。

橋村さんの怒りは、頂点に達した。滔々と森林に取り組み真摯な姿勢を理論的に展開、中途半端な取り組みではなく、100年構想であることを強調。馬鹿にするなとばかりに舌峰鋭く迫ったのである。ちなみに橋村さんは、この時点でその取得が大変難しいといわれている、森林インストラクターの資格を取得していた。これには、林務課の職員もたじたじ。最後に出たの

が捨て科白のような言葉であった。

曰く。「君達のような素人では、あの猿投山の急斜面で鎌を振るったり、ましてチェーンソーを使用することなど不可能である。我々でもやらない。第一、登るだけでも大変である」。

そこで橋村さんの駄目押しである。にんまりと頬笑み、「猿投山の斜面？あんなのは、冬の滝谷やヒマラヤに較べれば、我々にすれば、平地と同じですよ。チェーンソーなどは、日頃背負っている荷物に較べれば屁みたいなものです。平地（平気）、平地（平気）」。

これにはさしもの県のお役人も返す言葉がない。そそくさと帰って行った。その後およそ1ヶ月後に東海支部と県とで、猿投山の北西斜面の施業契約文書が交わされたことは、言うまでもない。

## 写真展作品募集のお知らせ

「第15回東海岳人写真展」で展示する作品を下記の通り募集いたします。

この写真展は隔年開催していますが、毎回80点ほどの作品を展示し、毎回3,000人近い一般市民の方に鑑賞して頂いて好評をいただいています。

日ごろの登山や山岳会の活動などの中で出会った美しい景色や感動した瞬間を写し撮った作品をふるってご応募ください。題材は山だけでなく高山植物や動物、登山風景など山岳会らしい写真であれば限定いたしません。また、高級なカメラでなくともコンパクトデジカメやスマホで撮影した写真でも大丈夫です。自信のない方には、写真展実行委員が作品化のお手伝いを致しますので遠慮なくお申し出ください。

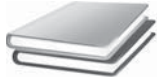
### 記

1. 期 日：平成28年3月15日(火)～20日(日)
2. 会 場：名古屋市中区市民ギャラリー栄
3. 展示点数：80点程度目標
4. 作品体裁：全紙サイズ板パネル
5. 出品費用：13,000円(プリント、パネル制作込み)
6. 募集期間：11月15日(日)～1月15日(金)



—昨年(平成27年)の第14回東海岳人写真展

7. 募集詳細：支部報今号に同封の「募集のお知らせ」「応募申込書」をご覧ください。
8. 備 考：「募集のお知らせ」「応募申込書」は 東海支部のホームページからもダウンロードできます。
9. お問い合わせは下記実行委員まで。  
実行委員長 井上寛之(14819) 副委員長 今田英司(12424)  
実行委員 岡本英俊(15089) 葛谷凱治(7261) 坂本孝(14519) 杉浦吉治(14094)  
椿利枝子(15336) 中野八千代(13769) 樋口悦子(12767) 増田千恵子(12768)  
箕浦靖夫(8073) 山内薫(14320)



## 東海支部の蔵書からの一冊⑤

図書委員 山中光子

### 『登山技術全書①』

#### 「登山入門」 (Basic Mountaineering)

野村 仁著

ヤマケイテクニカルグループ『登山技術全書』シリーズで12巻発行されている中の第1巻の「登山入門」。これから山登りを始める人が、ヤマを自由に歩けるようになる登山の基本を徹底解説されている本である。



山登りの基本とあり、経験者には物足りない本だとは思いますが、原点に返り掲載されている写真を楽しみながら読み返すのもおもしろい。

入門書らしく自然を歩く、山里を歩くから始まり用具、計画、情報集め、たのしみ方等、里山から一歩進み、低山のハイキングに入りハイキングと登山の違い、ハイキングとしての用具、山歩きの歩行技術、地図の使い方とある。

登山技術の学び方では、自分で学ぶ、講習会で知識を広げる、山岳ガイドの技術を学ぶ、ツアー登山への注意点、山岳会へ入会して学ぶと言う項目もある。その後順を追って、標高の高い山登り、標高と登山の難易度、服装、登山計画の立て方、状況に応じた歩行技術、コースタイムと行程管理、集団行動とリーダーの役割などをその多くに図と写真で分かりやすく解説している。

山の経験者ならリーダーとして引率する事もある。この本ではリーダーとしての心構えが次ぎのように記載されている。

☆リーダーの役割：登山中の行動を最終的に決めて、その責任を引き受ける。(メンバーの命を預かる)

- ・ 遭難防止を第一とすべき。

- ・ 各メンバーはリーダーの判断を尊重。
- ・ リーダーの負担を軽減するため自分の出来る事を積極的に果たそうとする姿勢が大切。
- ・ 読図とコース判断→地形図は国土地理院発行の2万5千分の1の縮尺図が基本。
- ・ 登山のための気象知識→確実に悪天候を避けられる知識や判断力が欲しい。
- ・ 山で泊る→1泊2日の登山計画に始まり宿泊道具、炊事道具の紹介から山小屋に泊る注意点、テント泊においてはテント購入時の注意点から始まり、テント設営・撤収、非常事態時のビバークの仕方まで詳細に明記。

危険への対処と遭難対策では、以下の重要な対応、対策登山が掲載。登山は危険と隣り合わせのゲームであり、多くの人は長い登山歴のうちに何度かの失敗経験を持っている。いろいろある山の危険と遭難について、真剣に学び遭難事故を起こさない登山者を目指す事が大切。

#### ☆山岳遭難対策：

- ・ 山の危険と悪天候への対応。
- ・ さまざまな危険への対応。
- ・ 道に迷ったら。
- ・ 救急処置とケガの手当て。
- ・ 遭難時の行動。
- ・ 山岳保険加入。

等の重要な対応策が掲載されている。

本の最終部分に近づき、高度になると登山のジャンルにおいて、「縦走登山」「沢登り」「フリークライミング」「アルパインクライミング」「雪山登山」「スノーハイク」「海外トレッキング」と続く。最後には一般登山の装備表、ハイキングの装備表を解説。登山計画書および登山届(例)、登山の基本用語集が列記されている。

ページを繰るたびに山への楽しみが、一つ一つ膨らんでいく。山の経験者でも楽しめる本である。

2007年9月発行

B5版 ページ数151頁 山と溪谷社

# 新刊書評—「白く高き山々へ」村中征也著

安藤忠夫

2015年8月11日 ナカニシヤ出版・刊  
A5 301頁 並装 カバー 1500円+税  
副題に「60歳からの青春—アルプス登山と語学留学の薦め」とある。

著者の村中征也さんは、みなさんご存知のように本会・東海支部員で、支部会計、支部友会委員長など長く役員をされていた方。今もスケッチクラブのお世話をされている。その村中さんがこのたび表題の山書を著わされた。京都のナカニシヤ出版からである。テーマは、7シーズンにわたるヨーロッパアルプスのガイド登山、8ヶ月間の老年語学留学(ドイツ語)と欧州一円の旅、加えてアルプホルンの製作・演奏活動、などである。

登山をはじめたのが旧・東海銀行に入行された直後。職域の東海銀行山岳部時代だそうだから、ほどなく60年にも亘る年季のほどは抜群である。が、職場での地位が向上するとともに、思うように行動がとれなくなるのは世の常。逡巡しきりのとき、あと押しをしてくれたのが田部井淳子の「やはり人間、思ったことは実行することだ。都会のオフィスの机の前でグダグダ物を言っているだけでは世界が広がらない」の言葉だった、とある。

監査役だった職場に1ヶ月間の休暇届を出し、ついに「……今マッターホルンの頂に立っているかと思うと、あふれる涙を抑えきれなかった。4478mの他を圧する高みで”青春の夢今こそ!”の感涙に浸った。1997年8月11日午前10時、58歳の誕生日から2日後であった」これは本書「はじめに」の中の一節である。ついにアルプス登山の夢がかなった。かつての企業戦士が、自らの手で呪縛の縄を解いた記念すべき時である。

さらに著者は語学留学の際に「ちょうど20世紀から21世紀へ向かう時であり、自分にとっても“齡60歳”人生最大の節目であった。……”悠々自適”や”60の手習い”など論外で、正に”青春が巡ってくる”思いがした」とも記す。これなど、社会のしがらみから抜け出た中高年者の心意気、万年青年の雄叫びそのものではないだろうか。この小文を草する筆者にして「一度だけの人生、かくあらねば」と消えかかった山

人生の先にはほのかな灯りを見た思いがする。以来2008年夏までの、アルプスの主だった32座の登山記が本書の主幹。

還暦後の語学留学は苦勞も多かったが、得るものはさ

らにそれに倍加して返ってきた。留学の地がドイツの古都・ミュンヘンだったことから、本書ではこの街を主に、通り一遍の旅人ではどうてい知り得ないドイツの日常の暮らしぶり、価値観などの知見が紹介されていて、これも興味尽きない。ひょっとすると前半の登山記もさることながら、このあたりが本書最大の読みどころではないだろうか。

アルプホルンとの出会いは、1997年最初のアルプス訪問時に、スイスのクライネシャイデックの駅頭で、アイガーを背にした演奏を聞いた時だった。帰国して木曾谷・大桑村の大桑アルプホルンクラブを訊ね、会員に加えてもらい、制作に続いて奏者の一員としての活動がはじまった、とある。

〈コラム〉欄には「アルプス登山への備え」「装備と食料」「登山ガイド」「ヒュッテと宿泊」「名ガイドを得て」などの登山に関わるものばかりか、「交通と費用」「友情は天から降ってこない」「どちらが親切?!」などの、彼の地で得られた生活知識のコメントも記されていて、長期滞在の知恵を授けてもくれる。

なお、「出版に寄せて」と題して、元日本山岳会会長の尾上 昇さんによる巻頭言が華を添えている。

ともあれ本書は、この後、アルプス登山の基本図書として、永く読み継がれて行くような予感がある。ヨーロッパアルプス、西欧各地の人と風物に興味のある方には必読であろう。





# 「春日山原始林」・「古代最後の霊地三輪山」

## —— 自然観察山行報告 ——

自然保護委員 浅井富士子

期日：2015年6月14日(日)～15日(月)

山行：14日 三輪山(467m)～山の辺の道

15日 春日山原始林～若草山(342m)～  
東大寺

天気：14日曇り一時小雨、15日曇り時々晴れ

参加者：12名(自然保護委員7名、その他5名)



久保田有氏による説明

14日(土)金山から車2台10名、岡崎から車1台2名が集合出発し、東名阪御在所SAで合流。3台(各4名)に分乗して、R25号線～天理IC～R69号線経由で、三輪神社近くの宿の駐車場に到着。

神社近くで昼食後、現地ガイドとして依頼してあった久保田有氏(日本自然保護協会奈良支部元支部長)と合流。予定より早く12:40到着。

始めに久保田氏から、三輪神社は3つの呼称があり、大神(おおみわ)神社、三輪明神、三輪さんで現地での石柱・表示は大神神社が多かった。三輪山そのものがご神体であること、明治以前はこの神社が絶大なる力を要していた。過去の台風でかなりの巨木が倒れて、山容が変わったと思えるほど、その他歴史を詳しく説明され、あとは三ツ鳥居をくぐり、境内の要所要所で説明を受けながら見学・参拝し、途中、まだ少し見られたササユリ園で楚々としたササユリを鑑賞して登山口へ。

狹井神社のある登山口では、氏名など記入し登拝料300円支払って輪袈裟を模した白いタスキ(鈴付き)を身につけて登山開始(13:30)。普通の登山道となったが、さすがご神体だけあつ

てゴミなど全くなく、階段が多く登りにくい。

途中例えば③三光の滝、④水呑台、⑥鳥さんしょう(幹がイボイボの珍しい樹木)など、番号とその場所の案内表示があり、山での位置関係はよく分かった。山のご神体でお参りの山と安易に考えていたが、意外と急登が続いたし結構山登りしている満足感が味わえた。この山中では水分補給以外の飲食は禁止されており、ちょっと窮屈な思い。ご神体は黒っぽい岩が積み重なっており、火山性斑レイ岩だと教えられた。

山頂到着は15:10で登りに1時間40分要しており、16:00までに下山報告せねばならないので、残された50分で下れるよう、されど足元に気をつけながら急ぎ気味に下り始める。途中閉山の見回りとみられる神社の関係者が登っていくのと出会って、きちんと管理されているらしいことを感じた。制限時間ギリギリに下山し、借りたタスキの本数を確認して返却してすべて終了(16:05)。

空模様が怪しくなってきたが、予定していた山の辺の道を1時間ほど歩こうということで、急ぎ足で山の辺の道へ入る。雨がポツポツ降り出し足元も滑りやすくなってきた。林や竹林に覆われた道は薄暗かったが、三輪山遥拝所、玄賓庵、桧原神社を経て大美和の杜展望台から小雨に霞む大和三山と奈良盆地を眺め、久延彦神社を最後に大神神社近くの宿に戻った(18:10)。急ぎ入浴後、近くのお店で夕食、珍しい山、歴史、植物、いろいろな話題で盛り上



参加者の皆さん

がった。

翌朝は宿(ゲストハウス三輪)こだわりの朝食をいただいて出発(8:10)。春日大社の駐車場に移動して観察山行開始(9:15)。前日に続き久保田氏の案内で北入口から春日山遊歩道へ整備された林道を登っていく。

山麓にはかつて人の手によって植えられたナギの多い林、断層のひずみの谷筋沿いの遊歩道には、途中、月日休憩舎や中谷休憩舎などがあり、辺りの林床植物は鹿に食べられて育たず、最近では大木のコナラやツクバネガシなどナラ枯れが進んでいる様を観察した。

春日奥山道路分岐から若草山山頂(三重目、342m)へ(11:05)。眼下には平城京など奈良盆地が広がる。鹿が沢山遊んでいる草原で昼食。奈良公園には異常なほど鹿が多く、山麓だけで1,100頭いるという。面積からすれば10倍以上の多さだそうで、彼らは観光客が与える鹿せんべいで生きているのではなく、それはおやつ程度で、公園内の植物をことごとく食べて生きている実態がある。森を本来あるべき姿に戻すために、鹿をシャットアウトしようという専門家もいるらしいが、それで森が蘇えるかそれも甚だ疑問だとされているという。

春日山の森は照葉樹が多く500種類以上もあるとのこと(1920年調査)。また、林床が弱く表土も少ないため樹木が倒れやすい。鹿のせいかヒルが多いという。今回ヒルの被害にあった人はいなかったようでほっとした。

山頂からは1月に山焼きされて緑一色の草原を、左手に春日大社の御神山の御蓋山(みかさやま)を見ながら下っていく。草原に唯一ナンキンハゼの灌木が、木は焼かれても伐採されても株が残り、勢いよく株立ちで青々した葉を茂らせている。二重目、一重目へと下り、若草山ゲートを通って下山する。ゲートで入山料150円を支払う。

あとは春日大社の見学とお参り。春日の森を抜けて東大寺へ、法華堂(三月堂)、二月堂、中門をくぐって大仏殿へ、中へは入らなかったけれど、窓からお顔だけ拝顔し、南大門の大きさ、仁王像の凄さなど改めて実感しながら奈良公園へ。

最後に春日大社方面へ向い、改めて春日の森の植生など観察しながら駐車場に戻る(15:30)。往路同様3台の車に分乗し、久保田氏を途中まで送って帰路につく。

## 委員会報告

### 【東海Youth】

東海Youth 7月～8月活動報告  
H27年8月20日

#### 1. 会員動向(8/20現在)

24名…1名退会(1年間活動実績なし)

#### 2. 山行報告(～8/20)

##### (1) 定例山行

- イ)7月5日 高賀山(雨天中止) 10名  
ロ)8月7日～9日 南ア・甲斐駒ヶ岳と仙丈ヶ岳  
(初めてのテント泊) 8名  
ハ)8月15日～16日 中ア・摺古木山黒川右俣  
遡行 10名

##### (2) 個人山行

- イ)6月26日～27日 北八ヶ岳(渋の湯～高見石  
小屋～東、西天狗～黒百合平) 4名  
ロ)7月2日～3日 八ヶ岳縦走(編笠山～天狗岳)  
1名  
ハ)7月9日～10日 竜ヶ岳+伊吹山 1名  
二)7月12日 築谷山(講座登山参加) 2名  
ホ)7月23日 木曾・柿其溪谷 2名

- ～)7月25日 中ア・摺古木山黒川右俣遡行 2名  
ト)7月27日 伊吹山 1名

#### 3. 山行計画(～9月20日)

##### (1) 定例山行

- イ)9月6日 片知溪谷沢歩き(入溪不可の  
時瓢岳登山) 13名  
ロ)平日山行 未定

##### (2) 個人山行

- イ)9月19日～23日 北鎌尾根～西穂高岳 4名

#### 4. 委員会

- イ)運営委員会 9月5日(15時～)

##### ※夏山の反省

- 8月7日～9日 南ア 甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳  
(初めてのテント泊)  
8月15日～16日 中ア 摺古木山。黒川右俣  
遡行(テント泊)

##### ※11月～1月定例山行地選定

- 11/〇日 12/〇日 1/〇日  
(東海Youth代表 山田明美)

## 【ボランティア委員会】

ブラインド登山の福祉バスの抽選会が、8月3日におこなわれました。その結果、秋のブラインド登山は11月3日(祝)に決定いたしました。これで秋の主な行事の予定が決まりましたので、ご協力いただける方は、是非ご参加ください。連絡は、前田まで (maedaiq@gmail.com)

### ○親と子のふれあい登山教室

自由ヶ丘幼稚園園児との登山体験、  
行き先は鈴鹿・尾高山

第一回=10月17日(土)雨天中止、金山集合  
第二回=10月31日(土)雨天中止、金山集合

### ○ブラインド登山

視覚障害者支援登山、  
行き先は美濃・釜ヶ谷山  
11月3日(祝)、金山駅8:15集合  
(ボランティア委員会委員長 前田隆久)

## 【自然保護委員会】

### 2015年度 自然保護全国集會に参加して

日本山岳会自然保護委員会の全国集會が自然保護委員会設立50周年をかねて東京都青梅市のかんぼの宿青梅で2015年7月11日~12日に開催され、全国各支部から91名が参加され東海支部から5人が出席した。各支部の活動状況、直面している問題、課題等の報告があり、東海支部からは南川委員長が、東海支部の自然保護委員会の今年度の活動と近況報告と猿投の森の動物調査について報告された。

会場を変えて昼食後の基調講演は、日本自然保護協会の辻村千尋氏が「南アルプスを貫くリニア新幹線の自然破壊」について講演された。講演後、ある参加者から自然保護委員会あるいは日本山岳会は、決して圧力団体であってはならない、との意見が出された。

パネルディスカッションではテーマの「JACのこれからの自然保護活動」が話し合われ、森武昭氏、尾野益大氏、西条好延氏、下野綾子氏、司会は近藤雅幸氏でそれぞれに意見が述べられた。

1964年に設立された自然保護委員会の活動の歴史について設立から40年を松本恒廣氏(東京多摩支部)が報告され、後の10年間を富澤克禮氏(本部、自然保護委員)が報告された。日本山岳会の全国的な組織は自然保護委員会のみである。

夕刻の18時30分からは、20時30分まで別会場



森 前会長

で懇親会が催された。

翌日の7月12日は、大岳山コース、高尾の森見学コース、横沢入りコースの3コースに分かれてのフィールドスタディで、東海支部の5人は、高尾の森見学コースに参加した。高尾の森見学コースには39名が参加した。

その森では高尾の森の河西代表の歓迎の挨拶を受けた。

『「高尾の森づくりの会」のフィールドは、下小沢川上流部を占める下小沢国有林のうち、右岸部分で、南は景信山(727m)、堂所山(731m)、北は下小沢川、関場峠に接した178haの区域である。活動拠点のベース小屋は下小沢とザリクボ沢の合流点(300m)にある。

高尾の森づくりの会では、2000年より荒れたスギ、ヒノキの人工林を切り開き落葉広葉樹を植樹し多様で豊かな針広混交林を目指しているとの事で、今まで落葉広葉樹約2万本(15ha)を植樹した』との事である。

東海支部5名は3班(10名)に入りザリクボの植樹された場所に案内された。いわゆるザレ場で数年前の植樹した木が枯れ2度目の植樹であるという。土が乏しいために向かい側の山の土を袋に入れロープで渡しその土で植樹したという。元気に育っている木に備え付けのペットボトルで水をかけた。

ベース小屋に戻り昼食。お味噌汁、スイカなどが振舞われた。思いがけないことでありがたかった。また、ベース小屋では、動物調査の映像を見ることができた。

今回の活動の総括として、川口委員長の言葉を引用したい。『「山の日」が制定施行される。祝日山の日の「山に親しみ、山の恩恵に感謝する」という活動を「山の日事業委員会」、「親子登山事業委員会」とさらに各支部とも連携して活動を盛り上げていき、自然に親しむ中で、自然の保護・保全の重要性を認識してもらう啓蒙活動が、これからの自然保護活動の重要な役割になるのではないかと』

(自然保護委員 井藤恵美子)

【山行委員会】

- 山域・山名 山行日 定員
- 乗鞍岳東：鉢盛山(2446.4m) 10/7 8人  
★★ リーダー：石井 仁
  - 富士山麓：十二ヶ岳(1683m)・  
足和田山(1355m) 2日間10/17～18 10人  
★★ リーダー：市川義行
  - 新島々北：天狗岩(1963.9m) 10/28 10人  
★★ リーダー：石井 仁
  - 奥美濃：蠅帽子峠(960m) 11/1 6人  
★★ リーダー：西山秀夫
  - 奥越：平家岳(1441.5m) 11/4 8人  
★★☆ リーダー：石井 仁
  - 大台：日出ヶ岳(1695.1m)  
2日間11/6～7 6人  
★★ リーダー：伊藤裕幸
  - 鈴鹿南部：仙ヶ岳(961m) 11/7 20人  
★★ リーダー：伊藤純一
  - 鈴鹿：イブネ(1160m)・  
クラシ(1145m) 11/14 8人  
★★☆ リーダー：鈴木慎吾
  - 東濃：恵那山(2191m) 11/15  
★★☆ リーダー：小川 務
  - 東三河：本宮山(789.3m) 12/2 10人  
★ リーダー：石井 仁
  - 鈴鹿：野登山(851.4m) 12/6  
★★ リーダー：伊藤純一
  - 奥三河：鹿島山(912m)・大鈴山(1011.9m)  
平山明神山(950m) 12/19 8人  
★★ リーダー：鈴木慎吾
  - 高見山地：高見山(1248.4m)  
2016/1/29 8人  
★★ リーダー：鈴木慎吾
  - 高見山地：三峰山(1235m)  
2016/2/10 8人  
★★ リーダー：石井 仁
  - 野坂山地：武奈ヶ嶽(865m)・  
三重嶽(974.1m) 2016/3/9 8人  
★★☆ リーダー：石井 仁  
(★印はグレードです。)

- ①支部山行ホームページから申し込んでください。(申込期限・定員があります)
- ②自分の実力にあった山に参加しましょう。
- ③一月に4～5座の山行を計画していきます。
- ④出来るだけ多くの方のご参加を期待しています。

⑤パスワードの問合せなどは、ホームページの「よくある質問」欄を見てください。  
(山行委員会委員長 鈴木慎吾)

【登山教室委員会】

- 10月から後期の講座が始まります！  
各講座とも現在受講生募集中。
- 後期(10月～3月)登山教室現地学習山行

中日文化センター(水曜日)	
10月14日	伊吹山地：北尾根
11月11日	鈴鹿：雨乞岳
12月9日	奥三河：三ツ瀬明神山
1月13日	奥三河：鳳来寺山
2月10日	高島トレイル：赤坂山
3月9日	伊那谷：陣馬形山

朝日カルチャーセンター(日曜日)	
10月18日	奥美濃：銚子ヶ峰
11月15日	鈴鹿：御池岳・鈴北岳
12月20日	南伊勢：姫越山
1月17日	駿河：浜石岳
2月21日	高島トレイル：赤坂山
3月13日	鈴鹿：藤原岳

NHK文化センター(土曜日)	
10月17日	鈴鹿：入道ヶ岳
11月21日	鈴鹿：鎌ヶ岳
12月19日	奥三河：岩古谷山
1月16日	南伊勢：姫越山
2月20日	豊田：猿投山
3月19日	鈴鹿：竜ヶ岳

- 中日登山教室山行参加者募集！  
中日登山教室では、バスの座席に余裕のある時には、支部員・支部友会員の方の参加を募集しています。ご希望の方は、会員番号、氏名、性別、生年月日(年齢)、電話番号、携帯番号、加入保険、メールアドレスを記入して、下記宛メールで申し込んで登録してください。  
申込先：鈴木慎吾 携帯電話090-3458-9973  
メールwillkun23@gmail.com

- 登山教室では現地学習指導員を探しています。やっただけの方がみえましたら、委員長までご連絡ください。  
(登山教室委員会委員長 天野倅明)

# 会 務 報 告

## 【2015年6月常務委員会】

日時：6月24日（水）19時00分～20時45分

1. 支部長挨拶(小川)五竜岳遭難の3名が6月13日～17日に発見された。池田さんは後日忍ぶ会が行われる予定。捜索については、山田、高橋両副支部長はじめ青年部の協力を得たことを感謝します。6月20日、21日に夏山フェスタが行われ、皆さんの協力により昨年より多い6,930名の入場者数となり大盛況だった。その際に行われた「ネパール震災支援への募金」は、本部を通じ現地に送る予定。6月20日に本部総会があり、新役員の名簿を配布し新会長ほかの紹介があった。

2. 審議事項- 登山届について(毛利)  
荒島岳遭難事故などの反省から正副支部長会議にて個人山行も含め、東海支部への登山届の提出を広く求める形にした方がよいとの結論に達したことを踏まえ、デジタルメディア委員会に運用方法の検討をお願いした。当要請に基づき、デジタルメディア委員会で用意した資料が配布され、補足説明があった。但し、配布された資料は運用方法の提案でなく、登山届の出し方の方法の説明が主となっていたため、今回の常務委員会にて可否を諮ることは出来ない状況となった。このため、別途検討委員会を設置(メンバー選定は総務委員長に一任)し運用方法の具体案を決定し、改めて常務委員会に可否を問う事となった。

### 3. 委員会報告

#### ①会計(市川)：

・本年度新たに支部員になった方への支部会費の請求-今回の支部報発送時に支部会費振込用紙を該当の方に送る予定であったが、年会費請求をすでに3月時での在籍状態で送付していること、支部友から4月に支部に入会した人の会費額(支部員は3000円、支部友は4000円)に差が生じるなどの問題が発生するので今回は予定していた振込用紙送付を取りやめることにした旨報告。

・海外登山委員会費用-未請求であった海外登山委員会費用として30,000円を請求し認められた。

②支部友会(毛利)：正副委員長が欠席のため代理で配布された資料をもとに報告。現在42名

③山行委員会(鈴木)：配布された6月度議事録に基づき、副委員長を石井仁にお願いした事、

支部山行HPの山行申込を定員に達すると自動的に締切ることにしたこと、森の音楽祭における猿投山登山を山行委員会が担当するよう要請を受けていたが、登山教室委員会に担当をお願いすることにしたこと、支部定例山行の本部への登山届提出は6月からの山行から開始し、当面委員長が提出を担当することとした旨報告。

④亀の会(加藤)：先月、傘寿の山行をした、現在80歳以上が7名。6月の山行は、24日「南沢山」へ行く旨報告。

⑤猿投の森づくりの会(和田)：配布された資料をもとに報告。10周年記念冊子を発行した、必要な人には申し出があれば進呈。山桜フィールドを利用して「炭づくり」をしようというプロジェクトが発足、森の会員でなくともJAC会員であれば参加出来るので、和田、坂井委員に申し出てほしいとのこと。

番外：ネパール地震被害調査報告(和田)

6/4～6/14まで、ネパール地震被害調査で行ってきた、現地の詳細は日本山岳会会報「山」に大津氏(コスモハーベスト社)の調査報告が掲載されているので読んでほしい。エベレスト街道はほぼ人的、インフラ被害はない。古い建物の90%以上が影響を受けた。ランタン谷は全滅。チベットへの道は当分閉鎖。現地は普通の生活に戻っているが、観光客がいないので収入がなく困っている。

支援に関して：外国からの支援とわかると(銀行の振替など)すべて政府に入る。直接的に届けないと駄目。よく考えての支援が大切との報告。

本部の対応(柴田)募金の使い方を模索中。ランタン地方、ロールワリン地方を目指しているが、政府を通さない方法を考えている。物品には関税がかかり、関税を払わないと没収となる。

⑥東海Youth(毛利)：委員長欠席の為、6月活动報告配布のみ。

⑦青年部(藤寄)：5月の山行は15件、遭難捜索に5月1回、6月1回参加。6月の定例会で副部長と実務担当者を決めた。ブログとフェイスブックを活用しアクセスした4人が見学に来た、そのうち1名入会した。ユースと来月御在所で活動したい旨報告。

⑧登山教室委員会(天野)：配布された資料に基づき報告。現在、指導員が少ないので推薦して

頂きたい、特に女性。各教室とも受講生数が減少気味。山行の山が同じ山になってきているので新しい山へのチャレンジを考えているとのこと。

⑨自然保護委員会(南川):配布された資料に基づき報告。6/14~6/15の自然観察山行は、日本自然保護委員会奈良支部長のガイドで春日山原始林を訪れた。他に自然保護全国集会などの報告。

⑩図書委員会(石田):特になし

⑪海外登山委員会(高橋):酒井支部員、マッキンリー登頂。日中韓交流登山に6名の派遣となった、中国で8/12~19に開催。

⑫遭難対策委員会:荒島谷川捜索(野呂)山田副支部長作成の報告書について補足説明-回収した遺品3点をご家族に渡したこと、遭難について様々な問題があるが後方支援の大切さなどを説明。

五竜岳捜索(高橋)配布された資料に基づき報告-5ヶ月間捜索した結果6/17までに全員発見。東海支部から延べ75名が捜索に加わったこと、今後の課題として捜索の際には、服装・装備も考える必要がある(川に入る場合もある)。救助隊の解散式・反省会を予定していること、参加したメンバーを今後の活動にも役立たい旨報告。

⑬写真展実行委員会(井上):4月末に上高地へ写真山行を実施。毎月1回位写真山行を実施予定、支部報にも掲載する旨報告。

⑭デジタルメディア委員会(井上):現在は特になし

⑮支部報編集委員会(星):支部報142号が完成し、支部総会記事を中心に24頁になった。夏山フェスタは次号に掲載するとのこと。

⑯インドヒマラヤ編集委員会(星):現在最終校正中。600頁位になる、7月末までに印刷へ回す予定。印刷部数は約1000部を予定。販売価格は4000円程度になりそうである旨報告。

⑰ボランティア委員会(加藤):配布された資料に基づき、SON愛知はアスリートメンバー・コース等ステップアップを目指す、ブライント登山は春と秋とでレベルを変える方向で進める旨報告。

⑱夏山フェスタ(毛利):入場者が6,930人。青年部、支部友会、登山教室など各委員会の協力を得て成功裡に終わった。募金も20万円ほどで、引渡式も終了し支部の口座に入金後、本部へ送金する旨報告。

⑲森の音楽祭実行委員会(箕浦・毛利):チラシを支部報に同封。出来るだけ広くPRしたいので、チラシ配布協力を依頼。参加費はバス代値上げもあり500円とした。《国民の祝日「山の日」制定を記念して》という副題も有り、今回は2部に森の観察会の他に、猿投山ハイキングとクリスマスリース作りを実施するとのこと。

⑳総務委員会(毛利):支部ガイドブックは、個人情報の問題もあるので会員名簿は別冊とし「ガイドブック」と切り離した旨報告。

出席者:箕浦、小川、柴田、佐野、野呂、中世古、高橋、和田、市川、石田、藤寄、鈴木、加藤、星、井上、毛利、天野、南川、  
欠席:尾上、酒井、前田、山田

### 【2015年7月常務委員会】

日時:7月22日(水)19時00分~21時15分

1.支部長挨拶(小川)五竜遠見の捜索について6月13日に岩田さん・6月17日に池田さん、藪田さんのご遺体の発見回収がされダビに伏された。1月以降、長期に渡る救助活動に労いとお礼の報告がなされた。

荒島岳の遭難捜索については大島さんのリュックが現在のところ不明の状態にあり、現在も捜査中である旨報告がされた。

2.審議事項:登山届について(柴田副委員長)平成25年の御在所岳本谷遭難事故死を契機に、携帯による登山届けを義務づけているところで、近年定着してきたがメールによる届け出の希望も有り、今回検討に至った。携帯電話による届けも存続させながらメールによる登山届が提案されたー承認。

井上委員から、運用方法、サーバー管理上の詳細につき説明と提案がなされた。併せてメールの不得意な人には紙・FAXでの登山届も可とすることとする事となった。

3.委員会報告

①支部友会報告(尾上):6月山行は盛況のうちに実施とのこと。第12回「夏山オリエンテーション」。第13回「最新の登山グッズ」の講演、第14回朝明ミーティングの準備についての報告。

夏山フェスタでは63名の入会希望者のアンケートがあった。次回7月30日に支部友会入会説明会の開催、体験会の実施を予定。8月23日に体験山行を南沢山《仮》で予定することにした。支部友会員に支部の活動をより多く知ってもらう意味で、猿投の森の音楽祭ではクリス

マスリース製作体験コーナーを支部友委員会で引き受けることとした。支部友会員は現在48名。

②亀の会(加藤欠席の為、毛利委員が代わりに報告)：6月25日の南沢山は17名の参加で実施された。7月23日の白駒池は天候不良のため中止になった。7月24日には亀の会の運営会議を行う。主な議題は“山での事故発生の手引きの検討”の予定との事。

③猿投の森づくりの会(和田)：配布された資料をもとに報告。猿投の森づくりの会では、10周年記念行事で冊子を作成した。会員外にもお渡しできるのでご利用くださいとの事。作業については7~8月は日中暑いため午前中の作業はしない、午後から講習会・勉強会をしていく旨の報告があった。

④東海 Youth(山田)：8月7~9日に、初めてのテント泊として定員5名で、南アルプスでの開催を予定している。また、8月15・16日に中央アルプス黒川左俣の沢登りをする旨の報告。ヘルメット必携。9月の初めに委員会を実施。9月26~27日には大島さんの追悼山行を予定している。詳細は未定。

⑤山行委員会(鈴木)：配布された資料をもとに報告。今後リーダーの養成については支部山行参加者から候補者を選抜し、支部山行の中で養成していくことを考えている。山行リーダーの依頼については、鈴木委員長より個別にリーダーの依頼をしていく事とした。支部山行のホームページについては締め切りの取り扱いの改善ができた事と、締め切り後の欠員募集はリーダーに一任する事とした。年間計画書のHPへの公開は当面先送りのため、支部報などの活用をして計画書を掲載していく事とした。

岩登り、沢登り教室の開催について尾上委員より夏山山行やヒマラヤトレッキング等の計画も取り入れて欲しい旨要望あり、鈴木委員長より対応を検討したい旨発言あり。また、柴田副委員長より支部としてレスキュー、岩登り関係の訓練、雪上訓練の3つを積極的に取り入れていきたい旨報告がなされた。

⑥登山教室(天野委員長欠席の為鈴木委員)：各教室の動向について、朝日の教室では1名の新入会があった。またNHKの教室にも1名の新規加入があった。山ボーイの講座は3名いたが1名減で2名となった。検討事項として猿投の森の音楽祭にて、猿投山登山担当依頼について毛利実行委員長より説明があり、3コースを設

定し参加者50名を想定し計画立案をすることとなった旨報告。

⑦支部報編集委員会(星)：143号は10月1日発行。原稿は8月20日迄に出して欲しい旨依頼。内容については夏山フェスタ・荒島岳の結論・山の日制定記念・同好会便り等予定しているとの事。

⑧インドヒマラヤ編集委員会(星)：11月初旬に出来上がる予定であること、および校正作業の現状が報告された。

⑨青年部(藤寄)：山行報告として7月は個人山行が中心、青年部としては7月18日~20日の3日間、小川山でのマルチピッチ・金峰山登山を行い参加は25名であった旨報告

8月は29日・30日御在所で技術講習会を予定している旨報告。

⑩自然保護委員会(南川)：配布された資料に基づき報告。6月14日・15日奈良県の春日山原始林と三輪山へ自然観察山行を行った。歴史と文化と山の自然について勉強になった。

また、7月11日・12日には自然保護全国大会が50周年記念集会を兼ねて多摩支部と共催で開催され、96名が参加、東海支部からは5名参加した。基調講演は「日本アルプスを貫くりニア新幹線の自然破壊について」。来年は四国支部で開催との事。

今後は、猿投の森の調査活動の取り組みをしていこうと考えている。内容は看板のチェック・植生・歴史・土壌・巨木・危険箇所などについて11月より調査実施する旨の報告。

第19回森の勉強会は関西支部、京・滋支部、東海支部の自然保護委員会で平成27年10月24日~25日に座学(嵐山周辺の景観は如何にして守られているか)と現地見学会(嵐山周辺)を予定。

⑪海外登山(高橋)：日中韓の三国交流登山には、中国の武漢へ全国から7名《内、東海支部から5名参加》8月15日ボートレース、ファイアーパーティー、8月16日自転車レース、8月17日ドラゴンボートレースとロッククライミング8月18日歓送迎会など国際交流と親睦を図る予定である旨報告があった。

⑫ボランティア委員会(前田)：視覚障害者の会「三ツ星山の会」(障害者81名、サポーター151名)と共同で今年の冬に富士見台スノーシュートレッキングを行う計画を検討している旨の報告があった。

⑬遭難対策委員会(山田)：大島さんの遭難現場

検証と遺留品捜索について4月12日の遭難以降3回の現場検証がされた。感想として初動が遅れた為、遺留品等の回収が難しくなったと報告。今回は8月1日に捜索に入る。

白馬の事故について神戸山スキークラブが兵庫岳連へ事故報告書を提出との事。また経費の精算について全額回収の見込みである旨の報告があった。

⑭写真展実行委員会(井上):後援と共催の依頼 - 愛知県・名古屋市・愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会・CBCは承諾済で、中日新聞・NHKは申し込み中で特に問題は無いとの事。9月25日写真撮影山行は乗鞍岳へ14名参加予定。また今後の計画として立山・仙人池予定しているとの事。

⑮森の音楽祭委員会(毛利):支部員、支部友のメンバーに準備の段階からの支援参加の要請を行った。9月19日と10月13日に作業を予定しており箕浦委員長より各委員会に参加のお願いがなされた。音楽祭第2部には現在50名ほどの参加希望がある旨報告。

⑯総務(毛利):平成27年支部運営交付金と新入会員獲得報奨金と合わせ882,000円が近々振込まれる旨報告

⑰「山の日」事業本部(佐野):「山の日」に関する事業の取り組みが全国的に進む中で東海支部としても取り組むための準備を始めた旨報告。内容としては3つの取り組みで①登山活動②文化活動③環境保全活動で行う。当地としては来年の8月11日・12日に記念講演、記念イベントを開催すべく準備中である旨。詳細は検討中。

出席者:尾上、箕浦、小川、柴田、山田、高橋、佐野、和田、星、藤寄、南川、石田、前田、鈴木、中世古、井上、毛利

欠席:市川、加藤、酒井、天野、野呂

### 【2015年8月常務委員会】

休会でした。

総務委員会 毛利邦男 記

### ル ー ム 日 誌

―― 6月 ―――

- 1日(月) 支部友委員会
- 2日(火) 県岳連
- 3日(水) 青年部/TNCC(同好会)
- 4日(木) 写真展委員会
- 5日(金) 古道塩の道/東海学生山岳連盟
- 8日(月) 登山教室委員会/支部報編集会議

- 10日(火) 支部友ミーティング
- 11日(木) 自然保護委員会
- 12日(木) 山行委員会/東海学生山岳連盟
- 15日(月) 図書委員会/支部報編集会議
- 16日(火) ボランティア委員会
- 17日(水) 総務委員会
- 20日(土) ユース(企画)
- 23日(火) 猿投の森運営委員会
- 24日(水) 常務委員会
- 26日(金) 東海学生山岳連盟

―― 7月 ―――

- 1日(水) 青年部/TNCC(同好会)
- 2日(木) 写真展委員会
- 3日(金) 古道塩の道
- 6日(月) 支部友委員会
- 7日(火) 県岳連
- 9日(木) 自然保護委員会
- 13日(月) 登山教室委員会
- 15日(水) 山行委員会/総務委員会
- 16日(木) 東海学生山岳連盟
- 21日(火) ボランティア委員会
- 22日(水) 常務委員会
- 23日(木) 図書委員会
- 24日(金) 亀の会運営会議
- 28日(火) 猿投の森運営委員会
- 30日(木) 支部友入会説明会

―― 8月 ―――

- 3日(月) 支部友委員会
- 4日(火) 県岳連
- 5日(水) 青年部/TNCC(同好会)
- 6日(木) 写真展委員会
- 7日(金) 古道塩の道
- 10日(月) 登山教室委員会
- 11日(火) 支部友ミーティング
- 13日(木) 自然保護委員会
- 17日(月) 図書委員会
- 18日(火) ボランティア委員会
- 19日(水) 山行委員会
- 20日(木) 東海学生山岳連盟
- 25日(火) 猿投の森運営委員会

### 会員異動

入会:

- 今飯田路恵(15765) 松吉ゆかば(15774)
- 木村綾子(15778) 清水健吾(15779)
- 水井将博(15782) 丹羽那仁(15788)
- 鎌倉源助(15804) 小澤大輔(15810)
- 田島章(15813) 勝又佑記(15818)

移動:安藤忠夫(7333) 信濃支部へ

退会:

- 藻谷 拓(10880) 斎藤勇二(15296)

物故:池田隼人(14538)



# INFORMATION

## 【総務委員会からのお知らせ】

### △東海支部新年会のお知らせ△

日 時 平成28年1月16日(土)

場 所 ザ・グランドティアラ名古屋本店  
(下前津高砂殿) 支部ルーム南隣

会 費 6000円(懇親会参加者のみ)

◎本年は立山、剣岳における現存氷河の発見者で平成25年度秩父宮記念山岳賞受賞者の飯田肇さんの講演を予定しています。また、本年は鹿島槍ヶ岳のカクネ里も氷河であることを発見。

◎出欠は別途11月末頃に往復はがきでご案内します。新年会には、支部友の方々もご参加ください。

### △日本山岳会創立110周年記念式典と年次晩餐会のお知らせ△

本年度の年次晩餐会は日本山岳会創立110周年記念式典を兼ねて12月5日(土)に東京新宿の京王プラザホテルにおいて行なわれます。詳しい内容は110周年事業実行委員会(尾上昇委員長)で検討中ですが、多数の方の参加をお願いします。同じホテルに泊まって大勢の会員と会話を楽しむこともできます。会員の方には本部事務局から案内状が来ますので各自お申込み下さい。多数の方のご参加をお願いいたします。

総務委員長 毛利邦男

## 【写真展実行委員会からのお知らせ】

厳かな冬の雪山、各地へ写真撮影を開催します。ご一緒に撮影参加しませんか。撮影せず、冬山を楽しみたい方も歓迎します。是非ご参加してください。

12月

### ① 厳冬の上高地 大正池

月 日 : 12月29日(火)～30日(水)

1泊2日(希望者は延長できます)

宿 泊 : 上高地大正池ホテル

交通手段 : 自家用車、タクシー

撮影対象 : 厳冬の上高地周辺、樹氷など

服装・装備 : 冬山の防寒対策の服装、ワカンまたはスノーシュー(雪道歩行あり)

申込締め切り : 12月初旬までご連絡ください

申込先 : 箕浦靖夫(写真展実行委員) 携帯 090-8184-0019 及び 委員会メンバー  
備考: 参加者決定後、詳細打合せを行います。別の期日で上高地撮影希望の方は対応しますのでご相談ください。

2016年 1月

### ② 富士山(本栖湖周辺)

月 日 : 1月3日(日)～4日(月) 1泊2日

宿 泊 : 民宿

交通手段 : 自家用車またはレンタカー

撮影対象 : 富士山、ダイヤモンド富士

服装・装備 : 冬山の防寒対策の服装

申込締め切り : 11月30日(月)

申込先 : 井上寛之(写真展実行委員) 携帯 090-6590-6669 及び 委員会メンバー  
2月

### ③ 美ヶ原

月 日 : 2月19日(金)～20日(土) 1泊2日

宿 泊 : 王ヶ頭ホテル、美ヶ原高原ホテル山本小屋等

交通手段 : 公共交通機関

撮影対象 : 雪の王ヶ頭等々

服装・装備 : 冬山の防寒対策の服装

申込締め切り : 1月末

申込先 : 坂本 孝(写真展実行委員) 携帯 090-2946-9555 及び委員会メンバー

申込・問合せは井上寛之 090-6590-6669 hinoue@sb.starcat.ne.jp または写真展実行委員までご連絡下さい。

写真展実行委員会 井上寛之

## 編集後記

夏山フェスタは、来場者が2日間で約7千名となり今回も増加している。登山に関する志向の多様化がある一方、来客者が青年層に及んでいることは歓迎である。

一方、自然は地球環境の変化と思える災害が多く発生している。中部地方の山では、御嶽山など火山活動が目につく。低山でも、雪害、ゲリラ雨などの影響で、登山道の崩壊など毎年見受けられる。このことを認識して、自分の体力にも留意した安全登山の計画書の作成が望まれる。

星 一男

海外トレッキングのパイオニア!

世界の山旅を手がけて46年  
ALPINE ツアー サービス 株式会社

“山仲間オリジナルツアーを企画しませんか?”  
説明会にお伺いします。お気軽にご相談下さい

名古屋 052-581-3211    
〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-23-2 (第3千福ビル3階) [www.alpine-tour.com](http://www.alpine-tour.com)



ハイキングから本格的な高峰登山までお気軽にお問い合わせ下さい。  
観光庁長官登録旅行業第1167号 / (社) 日本旅行業協会正会員

株式会社アトラストレック

名古屋サービスデスク TEL: 052-788-2422  
(東京本社転送電話)

【東京本社】〒180-0008 東京都新宿区三栄町25番地 三栄ハウス202  
TEL: 03-3341-0030 FAX: 03-3341-9200 E-Mail: info@atlastrek.co.jp  
ホームページ <http://www.atlastrek.co.jp/>

SINCE 1975  
mont-bell

ウェア・ギアに  
遊び心もそろえて  
お待ちしております!

アウトドア用品は、  
機能的なアイテムが豊富にそろう  
「モンベルストア」へ。



- 名古屋店 **Outlet** 愛知県名古屋市中区栄3-18-1  
ナディアパークロフト 6階
- 長久手店 **Outlet** 愛知県長久手市片平1-901
- 名古屋みなと店 **Outlet** 愛知県名古屋市港区品川町2-1-6  
イオンモール名古屋みなと3階
- 各務原店 岐阜県各務原市那加萱場町3-8  
イオンモール各務原 2階
- 長島店 **Outlet** 三重県桑名市長島町浦安368  
三井アウトレットパークジャズドリーム長島 2階
- 鈴鹿店 三重県鈴鹿市庄野羽山4-1-2  
イオンモール鈴鹿 1階
- 新静岡店 静岡県静岡市葵区鷹匠1丁目1-1  
新静岡セノバ 4階

**Outlet** アイコンのある店舗では、ファクトリーアウトレット商品も取り扱っています。

モンベル・カスタマー・サービス  
☎0088-22-0031 / TEL.06-6536-5740 [www.montbell.jp](http://www.montbell.jp)  
※フリーコールは携帯・IP電話からご利用いただけません。

公官庁の許認可申請・権利義務・事実証明の書類作成

## 西山行政書士事務所

〒460-0002  
名古屋市中区丸の内3丁目21-21丸の内東桜ビル1004号  
TEL : 052-961-6506  
FAX : 052-961-6507  
URL : <http://www.nygs-office.com/>  
facebook : <http://www.facebook.com/nygs.office>

企画・デザイン・印刷



株式会社 浅井隆文社

〒453-0801 名古屋市中村区太閤四丁目8番3号  
TEL (052) 451-6656 FAX (052) 451-6657  
E-mail : ta@asai-rbs.co.jp

◆◆◆◆◆ OMC ◆◆◆◆◆

住いのコンサルタント

(有) 富士見企画

〒460-0014  
名古屋市中区富士見町8番8号

◆◆◆◆◆



一般社団法人 日本自動車運行管理協会  
一般社団法人 中部地区自動車管理業協会

- ・一般貸切旅客事業
- ・車両運行管理事業
- ・愛知県知事登録旅行業
- ・労働者派遣業
- ・ビル清掃管理事業
- ・介護支援事業

〒465-0021 名古屋市長東区猪子石3丁目113番地  
TEL 052 (779) 8777(代) FAX 052 (779) 0031  
<http://www.work-system.co.jp/>